

りょくしよくぎょう かい がん 緑色凝灰岩

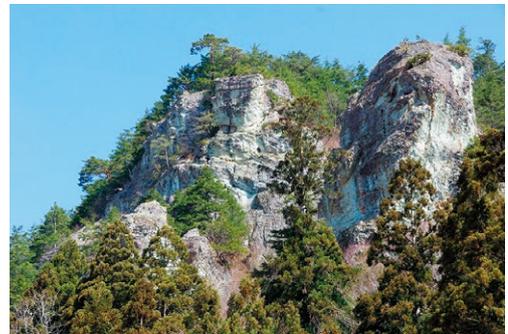


▲ 緑色凝灰岩

▶ 和泉田橋付近の河床



▶ 籠岩



町内で山の中を散策していると緑色がかった岩石を見かけることがあります。これは緑色凝灰岩です。只見町では、新第三紀に形成された地層(新第三系)が分布する町の中央部を中心に広く分布しています。

緑色凝灰岩は、日本列島の基盤岩が大陸から離れて現在の位置に移動した新生代新第三紀(2303万年前～258万年前)に形成したとされています。多島海だった当時の東北日本では海底火山活動が活発になり、緑色凝灰岩はその時に噴出した火山灰などを由来としています。火山性の熱水や圧力などにより含有される鉱物が緑泥石などに変質するため緑色に見えます。

こうした凝灰岩の多くは水分を含むと崩れやすく脆い特徴があります。この地域に特徴的な景観である雪食地形は新第三系の分布域でよく見られることから、多雪環境に加えて、こうした地質的な要因がこの形成に寄与していると考えられます。また、町内では成法寺裏の籠岩^{かごいわ}や伊南川支流日宮沢沿いの日宮沢観音、伊南川に架かる和泉田橋付近の河床といったところに緑色凝灰岩が浸食作用を受けて形成された特異な地質景観も見ることができます。

企画展

「只見の山を眺めれば…そこにある樹木に気づく企画展」

期 間：令和2年1月25日(土)～令和2年3月30日(月)

会 場：ただみ・ブナと川のミュージアム 2階ギャラリー

講座

「雪国只見の地形と樹木・植生の分布」

期 間：令和2年2月29日(土) 13時30分～15時30分

講 師：鈴木和次郎 博士(元只見町ブナセンター長)

会 場：ただみ・ブナと川のミュージアム(※入館料が必要です)